

戦略のちがい

1. 石の下のムカデ

雪もとけてくると、地面にあるものが目に入ります。啓蟄(けいちつ)とともに姿を現すものたちはありませんが、地面の下では植物の根は活動を始め、樹液が上がってきています。動物たちも準備を始めているかどうか、石の下をのぞいてみましょう。やっとな動かせるくらいの少し大きめの石か倒木が良いと思います。

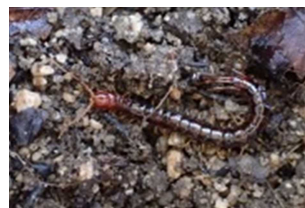
ミミズ、オカダンゴムシ、ムカデ、ヤスデ、コウガイビル、カブトムシの幼虫、アリなどいろいろ見えます。さらに小さいトビムシや見えないダニなどの土壌動物もいるはずですよ。

この時、注意すべきはオオムカデ類です。ムカデは多足類という仲間、脚がたくさんあるのが特徴です。脚が21対あり頭部が赤みを帯びたトビズムカデや、全体が赤みを帯びたアカムカデは毒が強く攻撃的で、噛まれると危険です。色が白っぽく小型で細長いジムカデ類は脚が50対以上あり、毒牙は細くて弱々しいもので危険性はありません。

トビズムカデは20cmくらいにまで大きくなり、ネズミなどまで襲う強者で樹上まで上がりいろいろな動物を食べます。そのため思いがけないところにいて噛まれたりしますが、寒いこの時期は大丈夫です。ジムカデ類は落ち葉の下や土中の小動物を餌とするためミミズのような体型で動きも早くありません。多い脚数は素早い動きは不得意ですが、落ち葉の下などではキャタピラーとなり動きやすいに違いありません。



トビズムカデ



アカムカデ



ジムカデ

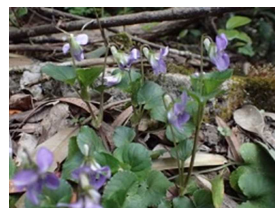
2. タチツボスミレとオオタチツボスミレ

石のそばなど温度が上がる場所では、1月からでも開花しているのがタチツボスミレです。花卉の紫色が薄く、目立ちません。同じ場所で少し遅れて開花するナガハシスミレは濃い紫色のため存在感があります。

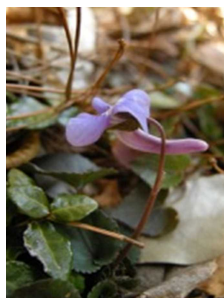
このタチツボスミレによく似たスミレに、オオタチツボスミレがあります。名前から見ると大きさが違うだけのようですが、形態や生育地に差があります。形態として花の距(きょ: 下側にある唇弁と呼ぶ花卉の後方の袋状になった部分)の色が、タチツボスミレでは紫色でオオタチツボスミレは白色であること、花柄(かへい)がタチツボスミレは根元から、オオタチツボスミレでは長く伸びる茎の葉の付け根から出ることで見分けられます。



タチツボスミレ



オオタチツボスミレ



ナガハシスミレ

生育地にも差があり、タチツボスミレは遊歩道脇の草刈りがされるやや乾いた場所や崖地に見られ、オオタチツボスミレはやや湿気の多い林縁の草むらに見られます。小さな株単位で生活する丈の低いタチツボスミレは、他の植物との競争が少ない場所、オオタチツボスミレは地上茎を上には伸ばし他の草に負けないう勢いがあります。葉も緑が濃くて厚く、花以外はタチツボスミレとは別物です。

スミレを食べるチョウであるミドリヒョウモンの幼虫は、オオタチツボスミレで多く見られます。

(倉吉博物館専門委員 國本洗紀 2020)